

令和3年度 施設関係者評価

評価基準 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	施設関係者評価	施設関係者評価者から	改善策(来年度に向けて)
1 教育・保育目標	(1)心身ともに健康で元気に遊ぶ子ども	やりたいことに向かって心と体を十分に働かせているか	○園児は年間を通して、季節に応じた自然に触れている。安全な環境の下、園庭や遊具で元気に遊んでいる。 ○幼児は、委託した講師の指導を受けて、体育・英語・絵画等を楽しんでいる。 ○保育者が見守る中、様々な体験を積み、自立的・意欲的に活動をしている。	A	A	○園庭で自然との触れ合いや、元気に遊ぶ姿が見られる。 ○薬山や総合遊具の改修を行い、安全に楽しく遊んでいる。	○心身ともに健康で元気に遊ぶことができる環境を作り、子どもが安心して主体的に活動できるように日々、改善していく。 ○職員がSDGsの考え方を理解し、園全体で取り組んでいるようにする。
	(2)心豊かで思いやりのある子ども	様々な人と関わりを持ち、自分の思いや要求を言葉や態度で安心して表現しているか	○異年齢児交流により、様々な友達と触れ合う機会があった。少ない機会の中で、友達の思いや考えを感じながら行動している。 ○保育者は、園児との信頼関係を築くため、愛情をもって欲求や気持ちを受け止めている。 ○昨年同様、コロナ禍で地域・お年寄りとの直接的な関わりが少なくなった。	A	A	○異年齢児活動は、コロナの状況を見て行って頂きたい。 ○SDGsの考えを取り入れることは、重要であり今後に期待したい。 ○発表会のおしりや作品展で、1つの事をやり遂げる達成感を得ていると感じた。これからも、このような場を提供し続けて頂きたい。	
	(3)自分で考え行動する子ども	○身近な環境に主体的に関り、活動を楽しんでいるか ○あきらめずにやり遂げようとしているか ○自信をもって行動しているか	○保育の中にSDGsの考えを取り入れ、子どもがその考えに触れる機会を積極的に設ける。 ○身近な環境に主体的にかかわることができるように、保育の環境設定に日々工夫を凝らしている。 ○1つの事をやり遂げる達成感を味わうことが出来るように、保育者が援助している。	A	A		
2 安全管理・指導	事故防止・防災	定期的に安全点検や避難訓練等の危機管理意識を持ち、全職員が安全な対策をとれるよう努めているか	○毎日の遊具点検、毎月の避難訓練の他、園内研修により防犯・防災研修、交通安全指導等を行っている。また、園児には、紙芝居や絵本、素話を媒介として、年齢に応じた防災教育を行っている。 ○アレルギーの誤飲・誤食を避ける為、保育者と給食職員で連携をとっている。 ○引き続き、SIDS対策として睡眠時のモニターや目視チェックを行っている。	A	A	○訓練や点検を大事にして、継続して行って頂きたい。 ○アレルギー対応は、職員間の連携が取れておりきちんと対応している。	大きな事故が発生していないことに安心せず、日々の訓練や点検を大事にしていく。
3 保健管理・指導	健康管理	○健康管理指導を行っているか ○園児への健康教育を行っているか	○検温の回数を増やし、体調不良者の早期把握に努めている。 ○園における新しい生活様式を作成し、手洗い・マスクの着用等、感染症対策を徹底している。 ○保護者にも感染症対策の理解を頂いている。引き続き、PCR検査を受ける場合等の連絡をお願いしていきたい。 ○園医による健康診断、看護師による与薬、視診検査検温を行っている。	A	A	○コロナ禍における健康管理は重要である。新たな取組が多く大変だと思いが、その中で可能な限りの対応をとっている。保護者や市とよく連携をとって対応して頂きたい。	○最新の情報を常に把握し、感染症対策を徹底していく。また、園児への健康教育も引き続き行っていく。 ○看護師の専門性を生かし、保健管理・指導を充実させる。
4 特別保育	子育て支援センター	保護者が子育ての喜びを感じられるように支援できているか	地域子育て支援拠点事業は、感染症対策を徹底し行った。母子の孤立が問題となる中、拠点事業の重要性はさらに増していくので、引き続き感染症対策を行いながら子育て支援していく。	B	A	○子育て支援センターは、不特定多数の人が出入りするので、感染症対策を徹底することが必要。今後も、最新の情報に基づき感染症対策を行って頂きたい。	支援センターの重要性を職員に認識させ、地域や子育て中の親子の役に立つよう事業を行っていく。
5 組織運営	組織体制の充実	チーム保育を行い、情報を互いに共有し合い、子ども理解や保育の進め方について周知、連携しているか	1月1回の職員会議の他、毎日の昼礼や園内研修で情報共有や保育の統一を図った。コロナ対策として、職員会議は昼と夕方の2部制とした。時期を見て、保育について全員でじっくり考える機会を設けたい。	B	A	○コロナ禍における情報共有について工夫していると感じた。	来年度もコロナ対策を行いながら、情報共有の場を設けていく。
6 研修	研修体制の充実	内外の研修後、自分の保育に活かしているか	○外部の研修は、リモート研修が増えた。これにより、短時間勤務の職員が研修を受けやすくなる等しい点もあった。今後も、外部の研修を積極的に活用したい。また、内部研修もより充実させたい。	B	B	新しいやり方で研修の機会が増えている。研修の重要性等を再認識し、内部外部を問わず積極的に研修を行って頂きたい。	研修の機会を確実に増えているので、勤務調整を図りながら参加したい。研修の重要性を認識し、多くの職員の真摯な向上につなげる。
7 教育・保育環境整備	教育・保育環境の充実	子どもの興味関心に寄り添いながら、自ら「やりたい」と主体的に活動できる環境を作っているか	○子どもの興味関心を把握すること、各園児の興味に沿った環境を作ることは難しいと感じた。 ○本の種類や数を多く配置し、興味のある本をすぐ手に取れる環境づくりをした。	A	A	絵本を積極的に配置していることが分かった。読み込まれて古くなった本も新しくする等、環境整備に取り組んでいる。	現在の環境を当たり前と思わず、日々改善をしていく。
8 家庭との連携	家庭教育への支援機能の充実	遊びや生活の様子を情報発信を行い、子どもの成長の喜びを共有できる環境作りを努めているか	○園児の普段の生活を動画配信することで、子どもの成長の喜びをより分かりやすく、共有することができるようになった。 ○保護者参加型の行事が縮小されているので、情報発信を積極的にすることを心掛けた。 ○希望による保護者への個人面談は、引き続き丁寧に行った。	A	A	○新たな動画配信サービスは好評なようで、いい取り組みだと感じた。 ○コロナ禍においても、新たな取組を導入する等、情報を積極的に発信している。	家庭との連携や理解を得るため、過去と同じ取組だけでなく、様々な取組を行っていく。
9 近隣の学校との連携	近隣の学校との連携の推進	近隣の学校との交流の場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を持っているか	○8月の異年齢児交流で、近隣の小学生と交流の場を持つことができた。 ○近隣小学校の教諭が、校長以下3人も公開保育参観会へ参加して頂き、小学校との連携を推進することができた。 ○小学校が1年生用のDVDを制作して頂き、小学校のイメージや見直しを持つことができた。	B	B	○コロナ禍において、小学校との連携は難しいが、公開保育でその機会を得ることができている。この貴重な機会を生かして、年長児が見通しを持って行うようにして頂きたい。 ○公開保育時に、小学校教諭からあった接続カリキュラムに期待することについて、残り短い期間だが取り組んでいただきたい。	○引き続き、近隣小学校との連携を推進していきたい。そのために、コロナ禍であっても交流の機会を模索していく。 ○小学校が本園に対し、期待することを職員が共有し、小学校との接続がスムーズにいくようにする。
10 地域との連携	信頼される園づくりの推進	地域の方との触れ合いの場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を作っているか	○コロナの影響で、地域の方やお年寄り等と交流の機会は少なくなっている。 ○地域のボランティアグループには、散歩、ミカン狩り、竹の子狩り等に協力頂き交流することができた。	A	A	○地域との交流が減る中、ボランティアグループとの交流は貴重な経験となっている。 ○これからも、色々な案を出してよりよくして頂きたい。	○地域ボランティアグループの高齢化のため、今までと全く同じ活動ではなく、可能な限りの交流をさせて頂きたい。 ○コロナの影響を見ながら、地域との連携を推進していく。